

# 週報



2006～2007 年度

2007年 5月 7日 第1827回 本年度第35回

国際ロータリー  
第2560地区

## Sanjo Minami Rotary Club

2006～07年度  
クラブ会報特別企画

- 【出席率】 会員61名中43名
- 【先々週の出席率】 91.38%
- 【ヴィジター】 三条RCより 渡辺喜彦君  
一年交換学生 レナ・フェルドタングさん
- 【先週のメイクアップ】
- 4/26 地区クラブ奉仕委員会へ 荒澤威彦君
  - 4/27 地区R財団セミナーへ 野崎正明君 田代徳太郎君
  - 4/30 ローターアクトクリーン作戦へ  
馬場一敏君 田代徳太郎君 星野健司君 佐藤秀夫君
  - 5/ 2 三条RCへ 馬場茂夫君 星野健司君 丸山徹夫君  
野島廣一郎君 坂井範夫君 佐藤嘉男君



あの人 あの時  
草野 恒輔君

### 会長挨拶

馬場 一敏 会長



挨拶致します。

ゴールデンウィークも終わり、それぞれ休日はいかがだったでしょうか。

当クラブではゴールデンウィークの期間中、会員他23名で台湾旅行に行きまして。鈴木武国際奉仕委員長幹の下、団長を吉田秀治さんをお願いしての旅でした。

幸い3日、4日は天候に恵まれました。

3日の午後、寿山公園に案内されました。革命の烈士を祭ったものです。下に海が見えますが高台のため石段を登るのに疲れます。夕食後は「六合二路」の屋台の見学でした。客は多いのですが、道路や設備はきれいに整備されているように見えました。

4日は、日本も採掘した金山の町「九份」の観光でした。山の高台に開かれた町ですが、細い道の西側に観光客用のお土産屋がぎっしり並んでおり、食物、民芸等を売っていました。

5日は、高速新幹線で台北に行き、『故宮博物館』を見学しました。リニューアルしたものでした。清の時代の物を中心に見学しました。「水晶」「メノウ」等の「ヘキ」や日常用品（皇帝）のもので、時代を超えても素晴らしいもので、人類の『宝』といわれるものと思います。

国際ロータリー会長

第2560地区ガバナー

第4分区アシスタントガバナー

会長 馬場 一敏

三条南ロータリー事務局

ウィリアム ビル ボイド [ニュージーランド]

中 條 耕 二 [三条北]

桑 原 寛 治 [加 茂]

幹 事 田 代 徳 太 郎

〒955-8666 三条市旭町2-5-10

TEL 0256-35-3477 Fax 0256-32-7095

E-mail [info@sanjo-minami.jp](mailto:info@sanjo-minami.jp) URL <http://www.sanjo-minami.jp>

SAA 広岡 豊 樹

三条信用金庫本店内

台北の夜の食事については、三条RCと台湾、新竹城RCとの姉妹クラブ締結に尽力された土城RC会長洪俊樑さんと会食、洪さんの行きつけのお店を紹介いただき、この旅行中最も美味しい料理を楽しむことができました。やはり、地元の人がよく利用する店と観光客が使う店との違いを肌で感じてきました。

5日の夕方から雨、6日も雨でしたが、雨のためバスを降りずに台北市内の主な施設を見てまわりました。午後はショッピングの後空港へ。三条へは午後5時頃到着しましたが、奥様方も一緒でしたので「咲の家」で解団式を行いました。

旅行中は事故も病気もなく、楽しい旅行でした。今回は特に三条クラブのお陰で台湾のロータリークラブの方と国際交流が出来、充実した良い旅行であったと思います。



～ 5月 7日 26,000円 今年度累計 899,000円 ～

- 三条RC 久しぶりにお世話になります。ようやく緑も濃くなり良い気候になりました。
- 渡辺(喜)君 台湾旅行を楽しんできました。BOXに協力
- 馬場(一)君 国際奉仕委員会企画の台湾旅行に参加された皆様、お疲れ様でした。
- 田代君 今日は「ヘタ」な卓話をさせていただきます。年に一度程度ですので勘弁して下さい。
- 滝口君 BOXに協力致します。
- 鈴木(武)君 国際奉仕委員会の台湾旅行、23名全員無事に帰途致しました。楽しい4日間を過ごしました。
- 吉田(秀)君 クラブの台湾旅行、皆様のお世話でヨタヨタの老夫婦も無事帰りました。皆様に大変ご迷惑をお掛けしました。
- 渡邊(久)君 台湾ツアーに参加して来ました。ご同行の皆様には大変お世話になりました。夜の会合には出席できず失礼しました。
- 安達君 3～6日までの台湾への国際親善旅行では鈴木委員長はじめご参加の皆様には大変お世話になりました。
- 坂井君 台湾旅行にあたり同行の皆様、大変お世話になりました。
- 西巻君 クラブの台湾旅行、皆様のお世話になり楽しい思い出が出来ました。
- 鈴木(圀)君 台湾旅行の参加の皆様には大変お世話になりました。
- 渡邊(光)君 無事に帰国しました。皆様にお世話様になり有難うございます。
- 武藤君 1日に結婚記念のお花をいただき有難うございました。
- 木原君 今日は「ロータリーの友」紹介日です。宜しくお願い申し上げます。
- 佐藤(栄)君 皆様、休みボケ?エンジンのかかりはいかがですか!
- 佐藤(秀)君 連休は畑仕事でよい汗を流しました。収穫は期待できませんが・・・BOXに協力
- 馬場(茂)君 ゴールデンウィークは好天に恵まれゆっくり休ませてもらいました。BOXに協力
- 坪井君 ①長い連休が終わりました。久しぶりの例会の気が致します。  
②滝口さんの卓話期待しています
- 相田君、田中(悌)君、野崎君 滝口さん、卓話ご苦労様です。楽しみにしています。
- 大溪君 BOXに協力致します。
- 田中(久)君 過日は結婚記念のお花を有難うございました。あれから59年、ロータリアンのお陰で思い出させていただきました。BOXにご協力有難うございました。

## 卓話

「いくつになっても・・・」

滝口 恵介 会員

昭和31年、卒業というのに職がなかなか決まらなかった。初級公務員試験に落ちて税務署に入れなくて、税金を受けても面接に失敗してこれも駄目になり、大変な就職難の時代であった。

三条高校の新聞部に席を置いていたが、一度も部室に入れてもらえなかった。男2人、女2人のクラブ、部長は三条新聞の社長夫人で山崎節子さんだった。



一人の男は部室に入っているのに自分だけは入れてもらえなかった。信金の面接でいきなり、「君が三高新聞を作っているのか」と聞かれ、「違います。私は売る係りです」と答えたら「え！なんで」と言われたので、もっと詳しく説明しなければと思い、「出来上がった新聞を登校してくる生徒に1部10円で売りつける係です」と答えた。「あゝもういい」と面接は終わってしまった。

私達の時代に公娼制度がなくなり、先輩などからいろいろな話を聞かせられ、また小説等であやふやな知識と思いが入り乱れ膨らむ年頃であった。いい仕事についてお金を貰い、結婚しなければセックスは出来ない、とにかく仕事だと心に誓って頑張ってみたものの続々と失敗ばかり。

親父は、出来の悪い子を持つと大変だと言って、勤めていた所を退職して、台所と風呂場を潰して工場にして玄能を作り始めた。サラリーマンが大変な時代で、とにかく自分で商売をやった人が勝ちの時代でもあった。2~3年で玄能作りが軌道に乗ってどうにか飯が食べれる自信がついたので、さてと思って周りを見たら、理想の女性は大、中、高と男女共学であったので、同級になった女の子で級長をしたり、クラス委員をした女性がまぶしく思い出され、即実行ということで、仲人を立てて話を進めることにした。その頃は、正式に仲人を立てて行った方が女心は動くものだと聞かされていた。

8人に正式に仲人を立てて行ったのに全部お断りという結果に終わってしまいました。10年後、プロポーズした人に「俺、そんなに嫌な男だったか」と聞くと、「滝口さん、あんたなんか私よりずっと背が低く、自己紹介の時に木に登るのは誰にも負けないと言って、教室の真ん中にある柱に登りついたり、クラスで一番小さいのに毎日誰かと喧嘩ばかりして、恥ずかしくて結婚なんて考えられなかった」と言われてしまった。

紹介する人があって、初めて見合いをすることになった。ローズマリーでコーヒーを飲みながら互いに観察し合った。今のかあちゃんである。足の形がいいなあと思ったりして1時間ほど話をしたか。

翌日のお昼休みに買ったばかりのホンダのバイク ドリーム号に乗って仕事着のまままで燕まで身元調査に出かけた。仲人口はいいことばかり言ってあてにならぬと人が言うので、燕の水道町、服部金左門といえはすぐ判るとのこと、しかし、3軒ほど聞いて廻ってみたが判らない。お昼休みも終わるので帰ろうと思ったその時、前の方からホッカマリをした女が出てきた。もしもしと声をかけると昨日見合いをした本人だった。調査はやめて面倒だ「俺の所へ嫁に来い」と言ってしまった。本人も「ハイ」と返事をした。

その後が大変だった。相手方も俺の方を調べていた。8人兄弟の長男で家も何も無く、小さなアパートで一人暮らしとかと親、姉妹が大反対。それらの話が出る度にバイクに乗って行って、中之口川の堤防を歩きながら、「家が無いが家の1軒くらい明日にでも建ててみせる」と説得してやっと一緒になることが出来た。それからがまた大変、「明日にでも建てると言った家はどうした」と毎日のように言われながらも、なんとその小さなアパートで子供3人も作ってしまった。

玄能はいまにダメになると言い張り、一人で家を出、共同組合を作って鍛造業を始めた。そして、それがまだどうにも目処がつかないうちに市議員に出してしまった。しかし、親父兄弟が反対する中で母親と妻は反対したことがなかった。

市議になって「女性の集い」があり200人程集った時、真夏なのにクーラーが無い。暑さと10人の市議員の延々と2時間ほど続いた同じ様な話に、半分は居眠り、半分はあくびをしてもう止めて欲しいのがありあり、司会者は最後の私に3分で止めてほしいと言う、「よし任せておけ、3分あれば充分、みんなの目を覚まさせてやる」と。

「皆さん、市議員は大変なんです。毎日毎日飲み会があり、帰りはいつも12時、1時。家族と一緒に夕食をとるのは1週間に1回位。でも、かあちゃんが朝飯を作っている時、後ろから抱き着いて酒臭い息を吐きながら耳元で『愛しているよ、愛しているよ』とささやくのです。初めは、クソ爺と思っただけでも言葉には魔力があるのです。言っている方も聞いている方もその気になってしまうのです。これと同じ、皆さん選挙に勝たせたい人がいたら、寝ても覚めても大きな声でその人の名前を言っていれば必ず勝たせることが出来るのです」とやったら、200人大笑い、大拍手。我妻、みよ子も大口を開けて大笑いしておった。

それからがまたまた大変。家に帰ると、

「お父さん、あんたはいつも家の中のことを話しているの？」

「いや、本当のことだし、お前も一番喜んでいたじゃないか」

「何言っているの、私が母ちゃんだと判ると大変だから一番早く大口開けて手をたたいたの！」

**いくつになっても人生は楽しいですね。**